

谷保天満宮

JR南武線谷保駅下車徒歩3分



木造獅子狛犬

谷保天満宮は、国立市南部甲州街道沿いの多摩川を臨む自然が豊かな立川段丘の縁にあります。学問の神様、菅原道真公を御祭神とし、湯島神社、亀戸天神社とともに、関東の三大天神と称されています。創始の由来は、「武蔵国多磨郡谷保安楽寺旧記」によれば、菅原道真公の第3子三郎道武がこの地に流され、亡父を慕って道真公の神像を祀った場所に、道武の死後三郎殿が建立されたことがはじまりとされています。後の養和元年（1181）に津戸三郎為守の霊夢により、府中市旧本宿村の天神島から、現在の地に遷座したとされています。

社叢と本殿

甲州街道の南の大鳥居から参道を入ると、都内では少なくなってきた鎮守の森「社叢」が参拝者を出迎えてくれます。社叢は深い木々で覆われ、静かで厳かな別世界が広がり、東京都指定天然記念物に指定されています。

参道の階段からはけ（段丘崖）下へ降ると、右手に本殿と拝殿が眼にはいります。江戸時代のはじめ頃までは、境内南側のはげ下に甲州街道が通っていたため、現在は本殿・拝殿が街道に背を向ける珍しい配置となっています。

本殿は、寛延2年（1749）に建築されたもので、切妻造りの屋根が、長く緩やかに流れるような曲線で庇までつながる「三間社流造」の構造により造られています。近年、退色が進んでしまっ



谷保天満宮本殿



いますが、かつては東照宮のようなきらびやかな極彩色が施され、格式の高い構造を備えた建造物で、市指定有形文化財に指定されています。

本殿脇には、現在は水量が減ってしまいましたが、湧き水が流れ、「常盤の清水」と呼ばれる泉や「弁天池」があり、訪れる人に安らぎを与えています。

社宝と獅子舞

天満宮の歴史を伝えるも社宝として、国指定重要文化財の建治元年（1275）藤原経朝筆の扁額「天満宮」や、鎌倉時代後期の写実的な表現と穏やかな作風の「木造獅子狛犬」一対があり、宝物殿でご覧になれます。また、秋の例大祭には多くの人が訪れ、市指定無形民俗文化財の勇壮な古式獅子舞が奉納されます。



木造扁額 額文「天満宮」



谷保天満宮獅子舞

国立市では、これら甲州街道旧村地域を中心に残された貴重な文化財を、「まちづくりの貴重な財産」とし、所有者の方々のご協力のもとで保存・活用を行っています。

【問い合わせ先】国立市教育委員会 生涯学習課
TEL 042-576-2111 (内線323)